い・せ・きワールド in 前橋 2009

平成20年度 前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ

M－1号古墳 石室

発掘調査の目的

土地開発など工事等で埋まっている遺跡が壊されてしまう前に、発掘調査を行い写真や図面で「記録保存」をします。史跡整備をするための発掘調査では、保存・活用を考えながら遺跡の内容を確認します。

発掘調査で見つかるもの

建物や溝の跡などの地面を掘った跡が見つかります。これを遺構（いこう）と呼びます。遺構からは遺物が出土します。遺物には土器、石器、木製品、金属製品、動物の骨などがあります。

発掘調査でわかること

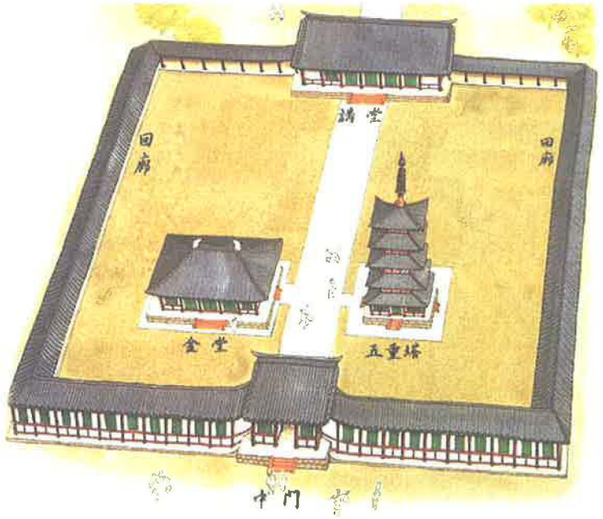
遺構や遺物から、地下に埋まっていた昔の人々の生活の様子がわかります。遺物からは遺構のおおよその時代がわかります。

史跡「山王廃寺跡」の調査について

山王廃寺は前橋市総社町に所在し、7世紀後半に建てられた、古代東国では最古級の寺院跡です。昨年3月には国史跡の追加指定を受け、史跡名も「山王塔址」から「山王廃寺跡」に変更されました。

前橋市教育委員会では、平成18年度から5カ年計画で山王廃寺の発掘調査を行っています。この調査では、寺院の諸施設やその周りの様子について、さらに詳しく調べることを目的としています。今年度は第3年次の調査として、塔や回廊などの調査を行いました。

これまでの調査で、塔の基壇は1辺が約14mと判明しました。回廊は東西80m、南北82mでほぼ正方形の回廊であると考えられます。金堂は東西22m、南北16m以上で、東・西・北の3辺の範囲がわかりました。講堂は南北24m、東西は調査と寺の中軸線を合わせて考え38mと判明しました。西側回廊の調査では、回廊の内側で金堂の北側に南北7m、東西10mの建物があることがわかりました。



山王廃寺伽藍配置想定図

☆用語メモ☆
【金堂（こんどう）】本尊を安置する寺院の中心となる施設。
【塔（とう）】　仏舎利（しゃり：お釈迦様の骨）をまつる施設。
【講堂（こうどう）】　僧が説教や講話などの修行をする施設。
【回廊（かいろう）】　塔や金堂、中庭などを囲む屋根付きの廊下。

☆文化財保護課では～主な催し物の紹介～☆

●前橋・高崎連携事業文化財展

平成21年1月から2月に『前橋・高崎の中世をあるく 東国千年の都 』を行い、両市出土の考古資料を合同で展示しました。前橋市での開催期間中には、約3千人の見学者が訪れ、前橋・高崎の古代遺産に触れていただきました。なお、この事業は来年度も行う予定です。

●前二子古墳石室復元市民プロジェクト

平成18年度からの3カ年計画で、石室内部を1878年に発掘された当時の姿に戻す活動です。3年目の20年度は鏡、ガラス玉を制作しました。なお、石室に納める儀式を含めたイベントを大室公園で春に行います。

プロジェクトで復元された鏡

上細井北遺跡群(1) M－1号古墳

これは古墳の石室です。床には玉石（細かい丸い石）を敷きつめ、壁には大きな石が並べてあります。石室の周りにもたくさんの細かい石が敷きつめてありますね。石室とは死者を納める部屋です。この石室にはどんな人が葬(ほうむ)られていたのでしょうか？

この古墳（円墳）は赤城山南面の上細井北部に7世紀初め頃に造られたと考えられています。現代の耕作などにより上部が壊されていましたが、石室や周堀の状況を良く確認できました。

古墳のすぐ近くにこれだけたくさんの石がある場所はありませんね。いったい、どこから、どのようにここまで運んで、何人の人たちで古墳を造ったのでしょうか。当時この地域に大きな力をもった人がいたのでしょうね。

平成20年度も前橋市内の多くの場所で、発掘調査が行われました。多くの作業員さんや地元の方々の協力の下に、暑い夏から寒い冬まで調査が行われました。発掘調査のまとめとして、両面印刷のパンフレットを作成しました。前橋市のどこでどんなものが今年度の発掘で見つかったのか、なるべくわかりやすくまとめました。

たくさんの人にこのパンフレットを見ていただき、昔の人々のくらしに少しでも目を向け、身の回りにある文化財を大切にしていただければ幸いです。

●問い合わせ●

平成21年3月31日発行　前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10－2 電話027－231－9875・9531　FAX027－231－9862
http://www.city.maebashi.gunma.jp/
Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp

平成20年度の発掘調査

発掘調査では、住居、土坑、溝などの生活の跡や、お椀（わん）、甕（かめ）、壺（つぼ）などの道具がたくさん見つかりました。今年度の発掘調査でわかったことをまとめると次のように大きく３つに分けられます。

☆山王廃寺では、塔の土台部分の様子が明らかになりました。
☆国分尼寺の南側には、瓦を敷き詰めた場所があることがわかりました。
☆上細井地区の古墳では、石室や周堀の状況をよく確認することができました。

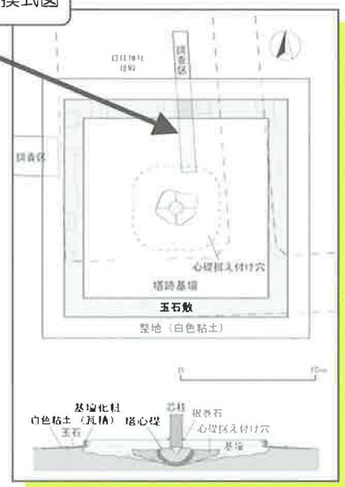
史跡「山王廃寺跡」

基壇の版築と瓦積み、玉石敷きの様子

塔跡の調査では、塔跡の基壇（きだん）とその周りの様子が明らかになりました。基壇の規模は1辺が約14mで、縁を瓦積みで化粧してありました、この周囲幅3mでは白色粘土で整地してありました、また周囲幅1.4mでは雨水でくぼまないように、白色粘土上に玉石が敷かれていました。

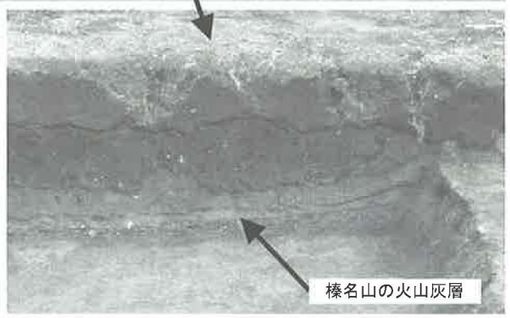
☆用語メモ☆
【版築（はんちく）】　土留めの堰板（せきいた）の間に薄く土を盛り、突棒で突き固めて層状に盛りあげる工法。中国、朝鮮半島を経由して日本にもたらされたと言われている。
【基壇（きだん）】　周辺の地面より一段高く土を盛り上げて、建物の基礎としたもの。

塔跡摸式図



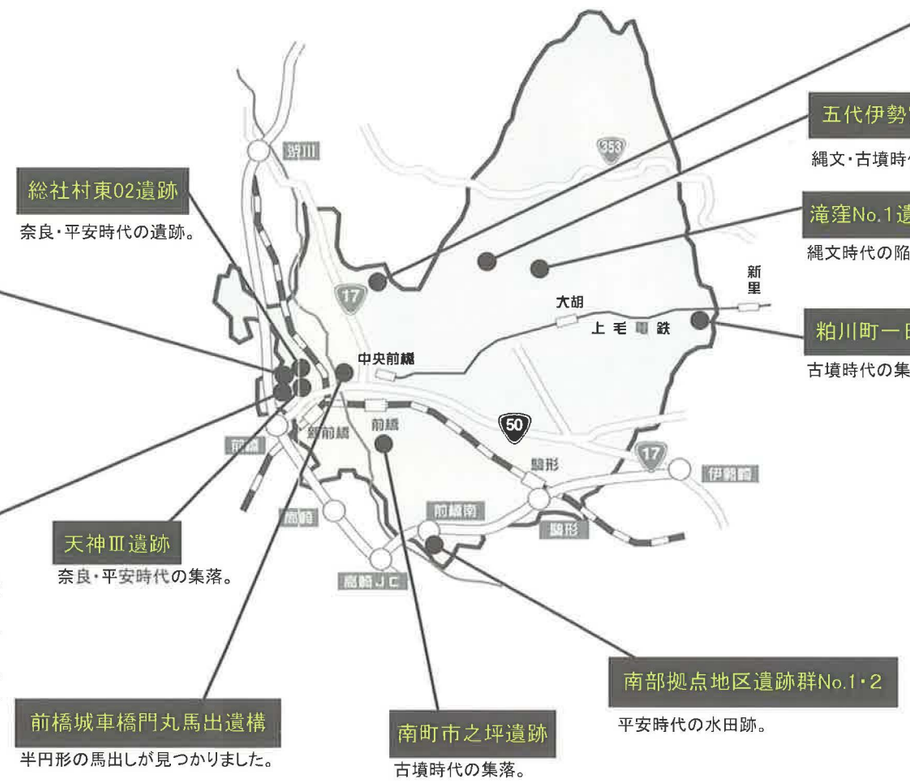
上細井北遺跡群(1)

榛名山の火山灰が積もった住居跡



榛名山の火山灰層

古墳時代から平安時代までの住居跡がたくさん見つかりました。写真は6世紀初頭の榛名山噴火で降ってきた火山灰が積もった住居です。群馬県では榛名山や浅間山の噴火による火山灰が、時代を知る手がかりになります。



総社村東02遺跡
奈良・平安時代の遺跡。

五代伊勢宮遺跡(2)
縄文・古墳時代の遺跡。

滝窪No.1遺跡
縄文時代の陥し穴。

粕川町一日市宿後遺跡
古墳時代の集落跡。

元総社蒼海遺跡群（20）～（25）

元総社地区は奈良時代に群馬の中心地だった国府（今でいうと県庁）がありました。前橋市が区画整理を行う（新しい道路などをつくる）前に、今年度も発掘調査を行いました。

今年度は残念ながら国府に関係する遺跡は見つかりませんでしたが、古墳～奈良、平安時代にかけての住居跡や国分尼寺の南側に瓦敷きなどが見つかりました。また国府の後に造られた蒼海城の堀も見つかりました。

天神Ⅲ遺跡
奈良・平安時代の集落。

前橋城車橋門丸馬出遺構
半円形の馬出しが見つかりました。

南町市之坪遺跡
古墳時代の集落。

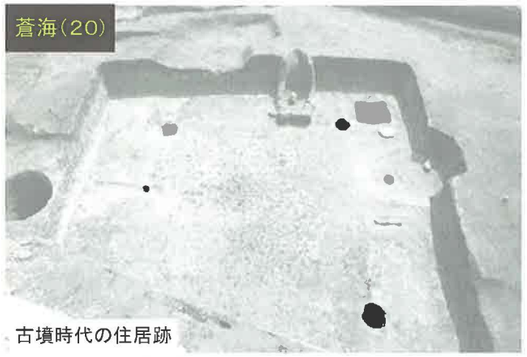
南部拠点地区遺跡群No.1・2
平安時代の水田跡。

蒼海（20）

国分尼寺南側での瓦を敷きつめた面

国分尼寺南側の中央部から南東方向に、細かい瓦を敷き詰めた面が見つかりました。どのような目的なのかさらに調査する予定です。お寺の前の広場かもしれません。

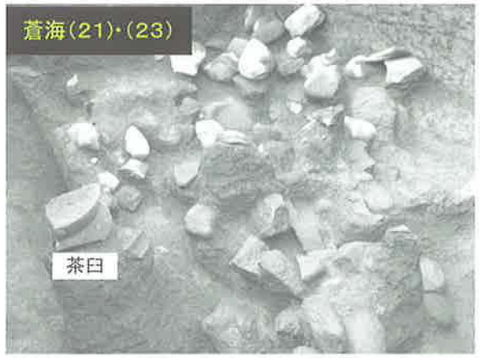
蒼海（20）



古墳時代の住居跡

1辺が6.5m四方と推定される大型住居跡です。壁には炭がたくさん見つかりました。このことから火災にあい、埋まった住居跡と考えられます。

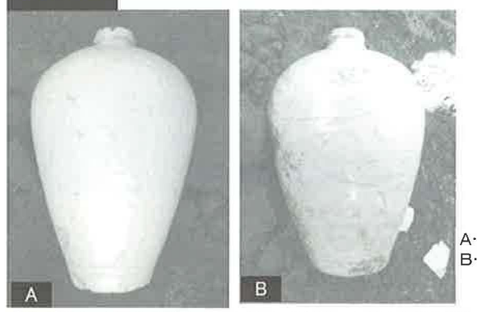
蒼海（21）・（23）



茶臼

蒼海城の二の丸を調査しました。当時の堀が見つかり、その中からたくさんの土器や中国から輸入された陶磁器、茶臼などが見つかりました。当時の武士の生活を垣間見る貴重な発見となりました。

蒼海（25）



A…高さ34cm
B…高さ24cm

室町時代に中国から輸入された青白磁（せいはくじ）の梅瓶（めいぴん）という酒を保存する壺（つぼ）が完形な形で見つかりました。蒼海城の屋敷で使われていたかもしれません。県内だけでなく、全国的にみても非常に貴重な発見となりました。

平成20年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	主な時代
山王廃寺（さんのうはいじ）	総社町	奈良、平安時代
総社村東02遺跡（そうじゃむらひがし02）	総社町	奈良、平安時代
元総社蒼海遺跡群(20)～(25)（もとそうじゃおうみ）	元総社町	古墳、奈良、平安～中世
天神Ⅲ遺跡（てんじん）	元総社町	奈良、平安時代
前橋城車橋門丸馬出遺構（くるまばしもんまるうまだしいこう）	大手町	平安、江戸時代～近世
南町市之坪遺跡（みなみちょういちのつぼ）	南町	古墳時代
南部拠点地区遺跡群No.1・2（なんぶきょてんちく）	鶴光路町、下阿内町	平安時代
粕川町一日市宿後遺跡（かすかわまちひといちしゅくご）	粕川町	古墳時代
滝窪No.1遺跡（たきぼ）	滝窪町	縄文時代
五代伊勢宮遺跡(2)（ごだいいせみや）	五代町	縄文、古墳時代
上細井北遺跡群(1)（かみほそいきた）	上細井町	古墳、奈良時代